

自然教育園で冬期に頻繁に見られた鳥（2021年1月，2月）

渡邊昭廣*

東京都品川区

Akihiro Watanabe: Miscellaneous Reports of the Institute for Nature Study (53): 67–72, 2021.

Shinagawa-Ku. Tokyo

はじめに

自然教育園では冬期に鳥が見られる機会が増えます。池では多くのカルガモ，森の中ではヒヨドリがよく見られます。でも，最近自然教育園で見られる鳥の種類は少なくなってきました。

今年（2021年1月，2月）は頻繁にルリビタキのオス，

メス，モズのオス，メス，カワセミ，オオタカが見られます。

これらの鳥はなわばりがあるのか，見られる場所が特定されています。

今回自然教育園で2021年1月，2月に見られたルリビタキ，モズ，カワセミ，オオタカについてまとめて見ました。

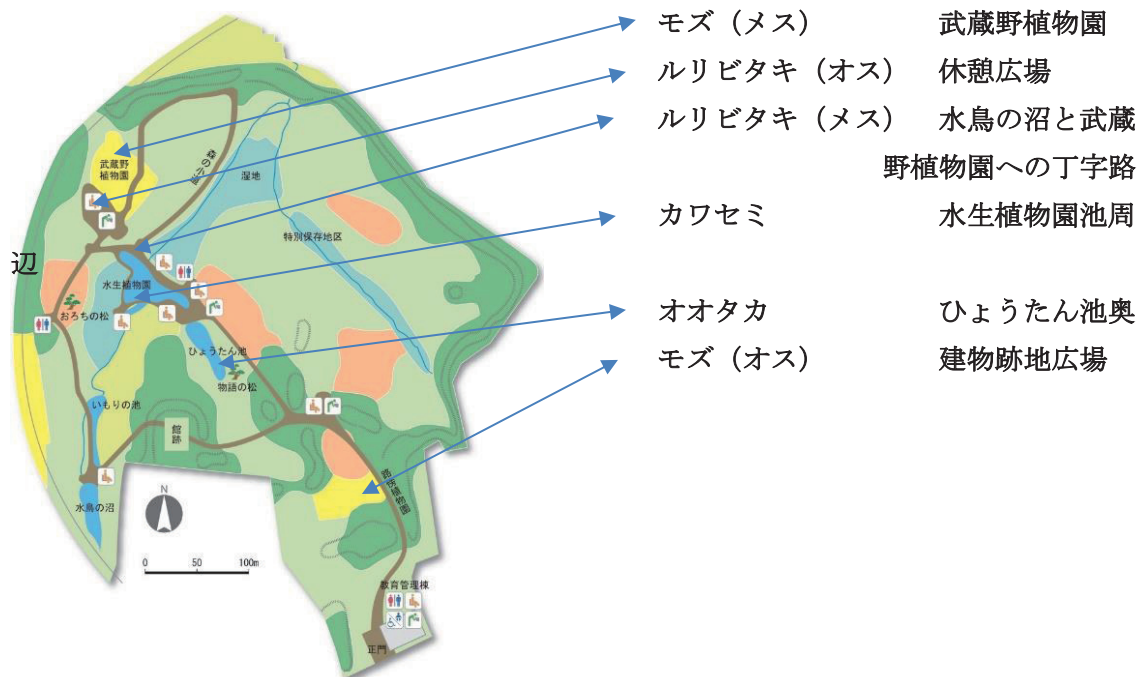


図1. ルリビタキ，モズ，カワセミ，オオタカの見られる場所。

* E-mail: a-shimoda@kahaku.go.jp

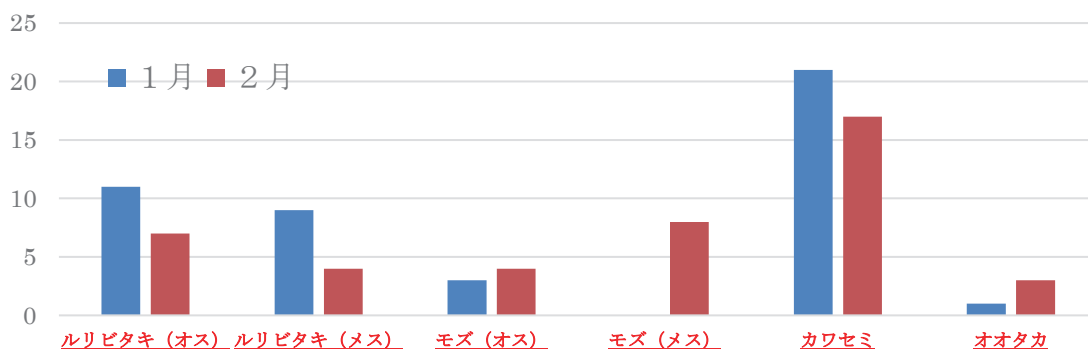


図2. ルリビタキ、モズ、カワセミ、オオタカ確認した日数 (2021年1月, 2月).

ルリビタキ

昨年あたりから自然教育園で決まった場所で頻繁に見られます。ルリビタキのオスは9時～10時, 11時前後に休憩広場に現れます。ルリビタキのメスは水生植物園から水鳥の沼と武蔵野植物への丁字路付近に現れます。

ルリビタキのオスは頭から背中, 尾にかけて瑠璃色で脇腹は黄色が鮮やかです。ルリビタキのメスは頭から背中, 尾にかけてはうす緑で脇腹は黄色です。

比較的低い木の枝や, ロープ, ベンチに止まります。時折, 地表の降り虫やミミズを捕っているようです。



ルリビタキ (オス)



ルリビタキ (メス)



(ミミズを食べる)

モズ

モズもなわばりがあるようで、オスは入り口付近の建物跡地の広場に、メスは武蔵野植物園付近にあらわれます。時折地表に降り立ち、カナヘビや昆虫を捕獲してい

ます。

モズは鋭く曲がった太い猛禽のようなクチバシ、頭は茶色、白い眉、背中が青灰色で、オスは目元に黒い筋があります。



モズ (オス)



モズ (メス)



カナヘビを捕獲したモズ

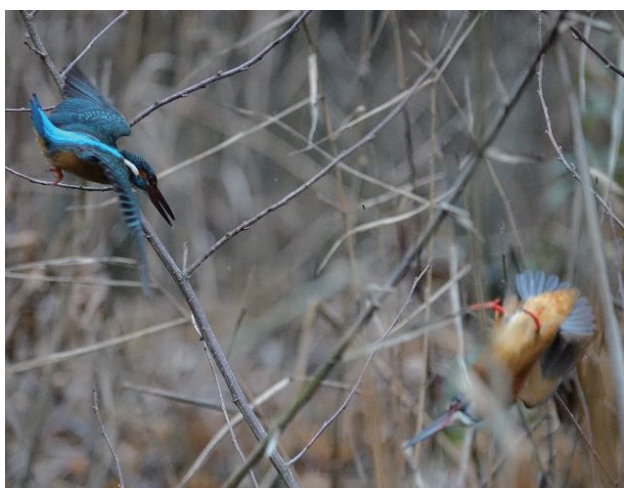
カワセミ

昨年の12月頃はひょうたん池の奥でみられましたが、今年の1月、2月は水生植物園の池付近でかなり近くの木に止まって、水の飛び込み魚やえびを捕獲する姿が見られるようになりました。

一時期2羽のカワセミがなわばり争いする姿が見られました。

背は青色で中央部は水色、腹部は褐色で、光のあたりかたにより緑色に見えることもあります。

メスは下のクチバシが赤くみえます。



縄張り争いをするカワセミ

渡邊：冬期に頻繁に見られた鳥

オオタカ

2年前からオオタカが自然教育園では営巣して子育てしている様子が確認されています。

今年もオオタカの鳴き声がよく聞かれ巣作りしているようです。

毎週日曜日の暖かい日にはひょうたん池の奥で水浴している姿が見られます。



オオタカがいるにもかかわらずカルガモが近くで泳いでいる



謝 辞

この撮影記録をまとめるにあたり、ご指導いただいた
矢野亮名誉研究員にお礼を申し上げます。